

小児科

(1) スタッフの紹介、資格

2016年4月1日伊藤由作、大岩香梨、鍋山千恵、飯塚千紘、石嶺里枝が着任、2016年9月1日中川権史が着任、2016年9月30日小田紘嗣が退職、2017年3月31日南原利彦、宮本尚幸、三上貴司、荒木亮佑、緒方瑛人、が退職、2017年4月1日荒井篤、前田貴美子、中田亜希、梶野浩彰、秋田充代、野末圭祐が着任し現在の体制に至っている。

主任部長

秦 大資： 日本小児科学会認定専門医・指導医、日本小児科学会代議員、
日本アレルギー学会認定専門医、日本アレルギー学会認定指導医、
日本小児アレルギー学会評議員、京都大学臨床教授

循環器部門部長

渡辺 健： 日本小児科学会認定専門医・指導医
日本小児循環器学会認定小児循環器専門医、
日本小児循環器学会評議員、日本小児肺循環研究会幹事、
日本胎児心臓病学会幹事、大阪胎児心臓スクリーニング研究会幹事

感染症部門部長

羽田敦子： 日本小児科学会認定専門医・指導医、ICD(infection control doctor)、
日本感染症学会感染症専門医・指導医、日本小児感染症学会評議員、
抗菌化学療法指導医
日本夜尿症学会理事、日本小児科医会子どもの心相談医

血液・腫瘍部門部長

塩田光隆： 日本小児科学会認定専門医・指導医、
日本血液学会認定血液専門医・指導医
日本小児血液がん学会指導医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

未熟児・新生児部門部長

水本洋： 日本小児科学会認定専門医・指導医
日本NCPR(新生児蘇生法)コアインストラクター
PALS(Pediatric Advanced Life Support)インストラクター
日本周産期新生児医学会認定周産期(新生児)専門医
京都大学小児科学教室非常勤講師

副部長 吉岡孝和： 日本小児科学会認定専門医・指導医、日本アレルギー学会認定専門医
日本リウマチ学会認定専門医、日本小児リウマチ学会認定専門医

副部長 山下純英： 日本小児科学会認定専門医・指導医、ICD(infection control doctor)

副部長 熊倉啓 : 日本小児科学会認定専門医・指導医
 日本小児神経学会認定小児神経科専門医
 日本てんかん学会認定てんかん専門医

副部長 阿部純也 : 日本小児科学会認定専門医・指導医、日本アレルギー学会認定専門医
 日本リウマチ学会認定専門医、日本小児リウマチ学会認定専門医

副部長 中川権史 : 日本小児科学会認定専門医・指導医、日本アレルギー学会認定専門医

医員 明石良子 : 日本小児科学会認定専門医・指導医

医員 伊藤由依

医員 本倉浩嗣

医員 秦直樹

レジデント 佐々木宏太、林美輝、米田徳子、加藤健太郎、花見洋太郎、大岩香梨、伊藤由作、鍋山千恵、石嶺里枝、飯塚千紘、中田亜希、榊野浩彰、秋田充代、野末圭祐、前田貴美子、荒井篤

(2) 診療体制

午前に一般外来、午後に各種専門外来、乳児検診、予防接種外来を行なっている。アレルギー外来を火曜日に阿部、水曜日に吉岡、金曜日に秦が担当し、循環器外来(火、金)、胎児心臓エコー外来(金)を渡辺、腎臓・夜尿外来(水)を羽田、血液外来(月)を塩田、新生児外来(木)を水本、神経外来(木・金)を熊倉、内分泌・代謝外来(火)を山下、(木)を山下と河井(非常勤医師、京都大学小児科)が担当している。

2016年度の外来患者数、時間外受診患者数、救急搬送患者数、入院患者数、平均在院日数、疾患別入院患者数、主たる疾患別平均在院日数は以下の表の通りである。2016年度の入院患者実数 3060名(対前年比 23名減、0.7%減)、外来のべ患者数 33743名(対前年比 218名減、0.6%減)であった。

(3) 教育

当科は日本小児科学会認定小児専門医研修施設、日本小児科学会認定小児専門医研修支援施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本小児血液・がん学会認定小児血液・がん専門医研修施設、日本周産期・新生児医学会指定研修施設、日本小児神経学会認定小児神経専門医研修施設として認定されており、2017年度からは小児科専門研修基幹病院に認定され小児科各領域専門医が研修医の教育を行なっている。

定期的教育活動

主任部長 秦 大資 京都大学医学部小児科臨床教授
 未熟児・新生児部門部長 水本 洋 京都大学医学部小児科非常勤講師

院内勉強会

小児科産婦人科合同カンファレンス 月1回
 小児科医師看護師合同カンファレンス 月1回

(4) 学会・講演・著作その他の研究活動

(著作)

論文

(原著)

Oda H, Sato T, Kunishima S, Nakagawa K, Izawa K, Hiejima E, Kawai T, Yasumi T, Doi H, Katamura K, Numabe H, Okamoto S, Nakase H, Hijikata A, Ohara O, Suzuki H, Morisaki H, Morisaki T, Nunoi H, Hattori S, Nishikomori R, and Heike T.

Exon skipping causes atypical phenotypes associated with a loss-of-function mutation in FLNA by restoring its protein function.

Eur J Hum Genet. 2016 Mar;24(3):408-14.

Tsujimoto K, Hata A, Fujita M, Hatachi S, Yagita M.

Presepsin and procalcitonin as biomarkers of systemic bacterial infection in patients with rheumatoid arthritis.

Int J Rheum Dis. 2016 Jun 13.

Hata A, Inoue F, Hamamoto Y, Yamasaki M, Fujikawa J, Kawahara H, Kawasaki Y, Honjo S, Koshiyama H, Moriishi E, Mori Y, Ohkubo T.

Efficacy and safety of live varicella zoster vaccine in diabetes: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial.

Diabet Med. 2016 Aug;33(8):1094-101.

Eroglu FK, Kasapçopur Ö, Beşbaş N, Ozaltın F, Bilginer Y, Barut K, Mensa-Vilaro A, Nakagawa K, Heike T, Nishikomori R, Arostegui J, Ozen S.

Genetic and clinical features of cryopyrin-associated periodic syndromes in Turkish children.

Clin Exp Rheumatol. 2016 Sep-Oct;34 Suppl 102(6):115-120.

Takaori T, Kumakura A, Ishii A, Hirose S, Hata D.

Two mild cases of Draveet syndrome with truncating mutation of SCN1A.

Brain Dev. 2017 Jan;39(1):72-74.

(Brief report)

Takamatsu K, Marumo S, Fukui M, Hata A.

"Safety and efficacy of anti-influenza drugs, intravenous peramivir against influenza virus infection in elderly patients with underlying disease"

Journal of Microbiology, Immunology and Infection, in press

Mizumoto H, Kawai M, Yamashita S, Hata D. Intraday glucose fluctuation is common in preterm infants receiving intermittent tube feeding.

Pediatr Int 2016; 58: 359-62

Koizumi M, Mizumoto H, Araki R, Kan H, Akashi R, Hata D.

The utility of electrocardiogram for evaluation of clinical cardiac arrest in neonatal resuscitation.

Resuscitation 2016; 104: e3-4

Miyazaki A, Sakaguchi H, Aiba T, Kumakura A, Matsuoka M, Hayama Y, Shima Y, Tsuji N, Sasaki O, Kurosaki K, Yoshimatsu J, Miyamoto Y, Shimizu W, Ohuchi H.

Comorbid epilepsy and developmental disorders in congenital long QT syndrome with life-threatening perinatal arrhythmias.

Clinical electrophysiology 2016.

Saitoh M, Kobayashi K, Ohmori I, Tabaka Y, Tanaka K, Inoue T, Horino A, Ohmura K, Kumakura A, Takei Y, Hirabayashi S, Kajimoto M, Uchida T, Yamazaki S, Shiihara T, Kumagai T, Kasai M, Terashima H, Kubota M, Mizuguchi M.

Cytokine-related and sodium channel polymorphism as candidate predisposing factors for childhood encephalopathy FIRES/AERRPS.
J Meorol Sci. 2016;373-75.

Toshihiko Nambara
Reliability of Total Bilirubin Measurements in Whole Blood from Preterm Neonates Using a Blood Gas Analyzer
Clinical Laboratory
2016;62:2285-2289

(症例報告)

Iwasaki S, Motokura K, Honda Y, Mikami M, Hata D, Hata A.
Vaccine-strain herpes zoster found in the trigeminal nerve area in a healthy child: A case report.
J Clin Virol. 2016 Dec;85:44-47.

新谷 裕、木内俊一郎、菅 仁美、吉岡孝和
小児の急性薬物中毒が虐待であった1例 —薬物誤飲は虐待に留意すべきである—
中毒研究 (日本中毒学会機関紙) 2016年 第29巻 4号 365—366頁

Sumie Yamashita, Atsuko Hata, Takeshi Usui, Hirotsugu Oda, Atsushi Hijikata,
Tsuyoshi Shirai, Naoto Kaneko and Daisuke Hata
Novel AVPR2 mutation causing partial nephrogenic diabetes insipidus in a Japanese family
J Pediatr Endocrinol Metab 2016 29 (5) : 591-6

山下純英
急激な経過で汎下垂体機能低下症に至った症候性ラトケ嚢胞の男児例
ホルモンと臨床 (小児内分泌学の進歩 2015) 2016, 62(5): 357-362

山下純英、山口かおり、村岡愛子、島本真弓、羽田敦子
単一症候性夜尿症におけるスクリーニング検査としての尿流量測定の有用性について
日本夜尿症学会雑誌 2016 第21巻 : 43-47

伊藤尚弘、山下純英、羽田敦子、村岡愛子、山口かおり、島本真弓
当院における夜尿症に対する2機種のアラーム療法の治療成績の比較
日本夜尿症学会雑誌 2016 第21巻 : 29-33

島本真弓、山口かおり、村岡愛子、杉元佐知子、伊藤尚弘、山下純英、羽田敦子
夜尿症治療の看護 支援における独自の親と子のタイプ分類チェックリスト(北野夜尿CLAリスト)の有用性
日本夜尿症学会雑誌 2016 第21巻 : 49-53

島本真弓、山口かおり、村岡愛子、山下純英、羽田敦子
総合病院小児科での夜尿症診療におけるチーム医療
小児看護 2017 第40巻 第1号 75-80

荒木亮佑、阿部純也、宮本尚幸、田中邦昭、吉岡孝和、塩田光隆、羽田敦子、渡辺健、秦大資
夜間の胸部不快感を主訴に高安動脈炎と診断された10歳女児例
小児科 57(10):1283-1287, 2016

三上貴司、本倉浩嗣、宮本尚幸、田中邦昭、秦大資、梅田雄嗣、平松英文、渡邊健一郎、藤野寿典、住本真一、塩田光隆

両側腎多発結節状腫瘍と多発脊椎転移病変を認めた前駆B細胞性リンパ芽球性リンパ腫の一例

日本小児血液・がん学会雑誌平成28年53巻2号: 135-138, 2016

中田昌利、塩田光隆、田中邦昭、壹岐 陽一、熊倉啓、水本洋、吉岡孝和、羽田敦子、渡辺健、秦大資

β 遮断薬内服で良好に経過した PHACE 症候群

日本小児科学会雑誌 平成28年120巻3号: 635-641

(総説)

羽田敦子

アラームによる夜尿症診療

夜尿症研究 21(): 5-10, 2016.

阿部純也、西小森隆太、平家俊男

Aicardi-Goutieres 症候群

別冊日本臨床 免疫症候群 (第2版) III 544-550 2016/3/20

阿部純也、西小森隆太、平家俊男

わが国における Aicardi-Goutieres 症候群の臨床像

小児科 57(8):1017-1024, 2016.

中川権史、西小森隆太

インターロイキン I 受容体拮抗分子欠損症

別冊日本臨床 免疫症候群 (第2版) III 807-810 2016年3月20日

(著書)

水本洋 (分担執筆)

日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト第3版

2016年4月1日. メジカルビュー社

水本洋

ガイドライン2015 準拠 新生児蘇生法NCP R. もっと早く! 人工呼吸を確実に成功させるためにできること

2016年5月1日. 南山堂

水本洋 (分担執筆)

日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法インストラクターマニュアル第4版.

2016年5月1日. メジカルビュー社

水本洋

持続グルコースモニタリング (CGM)

周産期医学 2016年6月号 p798-799

羽田敦子 (分担執筆)

夜尿症診療ガイドライン 2016

2016年6月29日 初版第1刷発行、診断と治療社

監修 金子一成

編集 日本夜尿症学会

夜尿症診療ガイドライン作成委員会:

大友義之、川合志奈、辻章志、内藤泰行、西崎直人、羽田敦子、服部益治、藤永周一郎、山西友典、吉田茂、石川鎮清、山口直比古

水本洋

シミュレーション教育を含めたトレーニング
ペリネイタルケア 2016年7月号 p51-54

羽田敦子（分担執筆）

インフルエンザ診療ガイド 2016-2017
2016年10月8日 発行、日本医事新報社
羽田敦子

「Q5 卵アレルギーがある場合のワクチン接種はどのようにすべきですか？」

水本洋

新生児低血糖
今日の治療指針 2017年版.

羽田敦子

Clinical Question 5. アラーム療法

(学会発表)

山下純英

第1回関西ゴーシェ病ネットワーク
頭部外傷を契機に診断された Gaucher 病Ⅱ型の1歳男児
2016年4月10日 大阪

辻本考平、羽田敦子

第90回日本感染症学会総会・学術講演会一般演題
タゾバクタム/ピペラシリン、メロペネムおよびセフトリアキソンの排便回数に与える影響の比較検討
2016年4月15日 仙台市

丸毛 聡、加藤瑞樹、中塚由香利、宇野将一、羽田敦子

第90回日本感染症学会総会・学術講演会一般演題
M. abscessus による腹膜透析カテーテル感染症の2例
2016年4月15日 仙台市

羽田敦子、石岡大成、大石和徳

第90回日本感染症学会総会・学術講演会一般演題
高齢糖尿病患者における水痘帯状疱疹ワクチンランダム化二重盲検試験後の同時接種 23 価肺炎球菌多 糖体ワクチン免疫応答解析
2016年4月16日 仙台市

田中孝之、西小森隆太、中川権史、井澤和司、河合朋樹、八角高裕、平家俊男

第60回日本リウマチ学会総会・学術集会
本邦でのメバロン酸キナーゼ欠損症のまとめ
2016年4月21日-23日 横浜

田中邦昭、塩田光隆、加藤健太郎、花見洋太郎、緒方瑛人、宮本尚幸、山下純英、永井靖識、

西田南海子、秦大資
第 119 回日本小児科学会学術集会
尿崩症発症 12 年後に複視を主訴に来院した NAFLD 合併下垂体胚腫の 1 例
2016 年 5 月 13 日 札幌

林美輝、塩田光隆、田中邦昭、伊藤尚弘、山本寛人、荒木亮佑、佐藤正人、林宏昭、鈴木奈美子
第 119 回日本小児科学会学術集会
尿閉・腹部膨満を主訴に土曜に救急外来を受診した骨盤部神経芽腫の 1 例
2016 年 5 月 13 日 札幌

宮本尚幸、渡辺健、佐々木宏太、本倉浩嗣、山本寛之、塩田光隆、津田悦子、白石公、市川肇、秦大資
第 119 回日本小児科学会学術集会
運動能低下を主訴に診断された心臓粘液腫の 12 歳女児の 1 例
2016 年 5 月 13 日 札幌

日衛嶋栄太郎、仁平寛士、中川権史、田中孝之、井澤和司、河合朋樹、八角高裕、西小森隆太、平家俊男
第 119 回日本小児科学会学術集会
小児急性肝不全におけるステロイドパルス±シクロスポリン療法の有効性に関する検討
2016 年 5 月 13 日 札幌

伊藤尚弘、熊倉啓、植松貢、佐々木宏太、秦大資
第 119 回日本小児科学会学術集会
頭部 MRI を契機に診断した先天性 CMV 感染症の 3 症例
2016 年 5 月 14 日 札幌

緒方瑛人、塩田光隆、加藤健太郎、林美輝、三上貴司、本倉浩嗣、阿部純也、渡辺健、秦大資
第 119 回日本小児科学会学術集会
ランゲルハンス組織球症治療後に高安病を発症した女児
2016 年 5 月 14 日 札幌

高折徹、佐々木宏太、熊倉啓、吉岡孝和、塩田光隆、羽田敦子、渡辺健、秦大資、村山圭
第 119 回日本小児科学会学術集会
難治性てんかん、退行の精査でミトコンドリア病と診断した 1 症例
2016 年 5 月 14 日 札幌

小泉正人、花見洋太郎、荒木亮佑、高折徹、伊藤尚弘、水本洋、秦大資
第 119 回日本小児科学会学術集会
急性期治療にサーファクタント補充療法が奏効した先天性間質性肺疾患の 4 ヶ月男児例
2016 年 5 月 15 日 北海道

佐々木宏太、熊倉啓、後藤雄一、中井理恵、秦大資
第 58 回日本小児神経学会学術集会
低酸素虚血性脳症による脳性麻痺と診断されていた PDHC 欠損症の 1 女児例
2016 年 6 月 3 日 東京

成宮牧子、澤田優子、浅野奈穂子、本田憲胤、水本洋、秦大資
第 37 回ハイリスク児フォローアップ研究会

NICU 退院後の子育てにおける母親の育児不安と発達との関連
2016年6月26日 東京

Mayumi Shimamoto, Kaori Yamaguchi, Aiko Muraoka, Kaori Tanaka,
Sachiko Sugimoto, Sumie Yamashita, Atsuko Hata
International Children's Continence Society:ICCS 2016 meeting
Hotel Granvia Kyoto, Japan
Effectiveness of initial guidance for enuresis alarm treatment
July 2 2016 Kyouto

Atsuko Hata
International Children's Continence Society:ICCS 2016 meeting
Hotel Granvia Kyoto, Japan
"Nocturnal urinary volume in children with refractory monosymptomatic nocturnal
enuresis after imidafenacin treatment"
July 2 2016 Kyouto

羽田敦子、山下優英
第27回日本夜尿症学会学術集会
夜尿症診療を最短で終わることができる年齢は何歳か？
2016年7月3日 京都

羽田敦子
第27回日本夜尿症学会学術集会ワークショップ
アラーム治療の新ガイドラインにおける変更点
2016年7月3日 京都

島本真弓、山口かおり、村岡愛子、田中かおり、杉元佐知子、山下純英、羽田敦子
第27回日本夜尿症学会学術集会
夜尿アラーム開始時の患者指導効果
2016年7月3日 京都

宮本尚幸、加藤健太郎、佐々木宏太、緒方瑛人、本倉浩嗣、伊藤由依、佐々木健一、
渡辺健
第52回日本小児循環器学会総会・学術集会
心筋シンチグラムで左室前壁の血流低下を認め微小血管狭心症と判断した16歳女児例
2016年7月6日 東京

伊藤由依、加藤健太郎、佐々木宏太、本倉浩嗣、宮本尚幸、渡辺健
第52回日本小児循環器学会総会・学術集会
心臓カテーテル検査・治療のヘパリン使用における定期的な活性凝固時間測定の有用
性-第三報-
2016年7月7日 東京

佐々木宏太、宮本尚幸、加藤健太郎、本倉浩嗣、伊藤由依、菅仁美、帆足孝也、津田悦子、渡
辺健
第52回日本小児循環器学会総会・学術集会
運動脳低下と意識消失発作を主訴に cardiacMRI で診断された心臓粘液種の12歳女児の一例
2016年7月7日 東京

加藤健太郎、佐々木宏太、緒方瑛人、本倉浩嗣、伊藤由依、宮本尚幸、渡辺健

第 52 回日本小児循環器学会総会・学術集会
先天性心疾患を合併した 7 番染色体短腕重複症候群の一例
2016 年 7 月 8 日 東京

本倉浩嗣、加藤健太郎、伊藤由依、菅仁美、坂口平馬、鍵崎康治、渡辺健
第 52 回日本小児循環器病学会総会・学術集会
3 度のショックから神経学的後遺症なく蘇生した Fontan 術後患児の 1 例
2016 年 7 月 8 日 東京

林美輝、宮本尚幸、伊藤由依、小泉正人、水本洋、渡辺健、秦大資
第 52 回日本周産期・新生児医学会学術集会
7 番染色体短腕重複症候群 (7p 重複症候群) の 1 例, A Report of 7p Duplication
Syndrome
2016 年 7 月 17 日 富山

本倉浩嗣、水本洋、林美輝、荒木亮佑、小泉正人、秦大資
第 52 回日本周産期・新生児医学会学術集会
ラリングアルマスクエアウェイ (LMA) が有効であった先天性気道病変の 2 症例
2016 年 7 月 17 日 富山

荒木亮佑、小泉正人、水本洋、秦大資
第 52 回日本周産期・新生児医学会学術集会
エコーウイルス感染症により大腸菌性髄膜炎が再燃した早産児の 1 例
2016 年 7 月 16 日-18 日 富山

南原利彦
第 52 回日本周産期・新生児医学会学術集会
食道吻合術後早期に経口哺乳を確立できた先天性食道閉鎖症 (Gross A) の 1 例
2016 年 7 月 16 日-18 日 富山

三上貴司、塩田光隆、伊藤由作、大岩香梨、加藤健太郎、南原利彦、田中邦昭、梅田雄嗣、岡
本健、秦大資
第 11 回 京都地区血液腫瘍研究会
夜尿症、心窩部痛、左鎖骨上窩リンパ節腫脹を契機に発見された線維形成性小円形細胞腫瘍の
12 歳男児
2016 年 7 月 23 日 京都

羽田敦子
大阪夜尿症セミナー
～診療ガイドラインの改訂の骨子と意義～ アラーム療法について
2016 年 7 月 23 日 大阪市

齋藤真木子、星野愛、廣瀬伸一、高梨潤一、菊池健二郎、久保田雅也、山中岳、椎原
隆、熊倉啓、後藤知英、山内秀雄、水口雅
第 28 回神経免疫学会学術集会
けいれん重積型 (二相性) 急性脳症の病因、病態
2016 年 9 月 29 日 長崎

加藤健太郎、水本洋、佐々木宏太、三上貴司、本倉浩嗣、高折徹、菅仁美、小泉正人、羽田敦
子、秦大資

第 29 回北野小児科学術講演会
同一大腸菌による細菌性髄膜炎を反復した早産児の一例
2016 年 10 月 1 日 大阪

伊藤由作、塩田光隆、大岩香梨、加藤健太郎、三上貴司、南原利彦、八杉誠、田中邦昭、梅田雄嗣、岡本健、秦大資
第 29 回北野小児科学術講演会
夜尿症、心窩部痛、左鎖骨上窩リンパ節腫脹を契機に発見された線維形成性小円形細胞腫瘍の 12 歳男児
2016 年 10 月 1 日 大阪

佐々木宏太
第 29 回北野小児科学術講演会
Joubert 症候群の同胞例
2016 年 10 月 1 日 大阪

三上貴司、羽田敦子、佐々木宏太、緒方瑛人、田中邦昭、阿部純也、秦大資
第 29 回北野小児科学術講演会
難治性中耳炎、頸部リンパ節腫脹を契機に発見された小脳結核腫を伴う播種性結核の 2 歳女児の 1 例
2016 年 10 月 1 日 大阪

佐々木宏太、熊倉啓、菅仁美、水本洋、才津浩智、秦大資
第 50 回てんかん学会学術集会
KCNQ2 遺伝子変異を認めた早期発症てんかん性脳症の 1 例
2016 年 10 月 7 日 静岡

羽田敦子、榊原敦子、奥野壽臣
第 20 回日本ワクチン学会学術集会
健常成人における水痘帯状疱疹ワクチンの細胞性免疫能評価
2016 年 10 月 22 日 東京

仁平寛士、西谷真彦、日衛嶋栄太郎、中川権史、田中孝之、井澤和司、河合朋樹、八角高裕、西小森隆太、平家俊男
第 26 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
ステロイドパルス後に脳梗塞を発症し、MRA で多発脳動脈狭窄を認めた JIA の一例
2016 年 10 月 22 日 千葉

本田吉孝、河合朋樹、西小森隆太、八角高裕、井澤和司、日衛嶋栄太郎、中川権史、柴田洋史、下寺佐栄子、大音泰介、芝剛、仁平寛士、小田紘嗣、小原収、平家俊男
第 26 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
PFAPA の臨床像で発症し、長期経過後に腸管炎症、陰部潰瘍を合併したため診断に至った孤発性の TNFA1P3 異常症の 1 例
2016 年 10 月 23 日 千葉

加藤健太郎、山下純英、羽田敦子、秦大資
第 26 回小児腎疾患カンファレンス
先天性腎尿路器系及び尿路感染に伴う続発性偽性低アルドステロン症を発症した 5 カ月女児例
2016 年 11 月 5 日 大阪

山下純英、水本洋、熊倉啓、渡辺健、秦大資
第50回日本小児内分泌学術集会
Syndromic hypothyroidism の3症例
2016年11月16日 東京

加藤健太郎、羽田敦子、吉岡孝和、秦大資
第48回日本小児感染症学会総会・学術集会
非ワクチン関連血清型株による肺炎球菌菌血症を繰り返した一例
2016年11月19日 岡山

本倉浩嗣、水本洋、宮本尚幸、小泉正人、山下純英、秦大資
第61回日本新生児成育医学会・学術集会
尿閉契機に脊髄稽留症候群を診断した腰仙部皮膚陥凹と成長障害を伴う女児の1例
2016年12月2日 大阪

成宮牧子、澤田優子、浅野奈穂子、本田憲胤、水本洋、秦大資
第61回日本新生児成育医学会学術集会
NICU入院経験のある児の子育てにおける母親の不安の特徴について
—修正4ヶ月、修正10ヶ月時フォローアップ外来での語りから—
2016年12月2日 大阪

三上貴司、水本洋
第61回日本新生児成育医学会学術集会
出生後の胃内pHの変化と新生児における経鼻・経口胃管の安全な挿入に関する検討
2016年12月3日 大阪

緒方瑛人、塩田光隆、佐々木宏太、荒木亮介、三上貴司、田中邦昭、梅田雄嗣、出口隆夫、秦大資
第58回日本小児血液・がん学会学術集会
Ambiguous Lineage な急性白血病における診断と治療；急性未分化白血病の5歳男児例
2016年12月15日 東京

三上貴司、塩田光隆、伊藤由作、大岩香梨、加藤健太郎、南原利彦、田中邦昭、梅田雄嗣、岡本健、秦大資
第58回日本小児血液・がん学会学術集会
夜尿症、心窩部痛、左鎖骨上窩リンパ節腫脹を契機に発見された繊維形成性小円形細胞腫瘍の12歳男児
2016年12月17日 東京

成宮牧子、澤田優子、浅野奈穂子、本田憲胤、水本洋、秦大資
第19回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム
NICU入院経験のある児の子育てにみる母の変化
～修正4ヶ月、10ヶ月、1歳半時フォローアップ外来の事例から～
2017年2月17日 長野大町市

水本洋
第19回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム
ラリンゲアルマスクエアウェイの普及活動について
2017年2月17日 長野

水本洋
平成 28 年度第 4 回周産期医療研修会
いざという時に新生児を救うラリングアルマスクエアウェイ
2017 年 2 月 25 日 大阪

西崎直人、座長 羽田敦子
第 30 回近畿小児科学会ランチョンセミナー
「新しいガイドラインに基づいた夜尿症診療」～診断・検査・治療 up-to date ～
2017 年 3 月 5 日 大阪

三上貴司
第 35 回京都大学小児血液腫瘍研究会
出生時より血小板減少、DIC、肝脾腫を呈し TAM と鑑別を要した AMKL の一例
2017 年 3 月 11 日 京都タワーホテル（京都市）

加藤健太郎、山下純英、羽田敦子、秦大資
第 30 回近畿小児科学会
先天性腎尿路奇形及び尿路感染症に伴う二次性偽性低アルドステロン症の 1 例
2017 年 3 月 12 日 大阪

緒方瑛人、阿部純也、大岩香梨、吉岡孝和、秦大資
第 30 回近畿小児科学会
アセトアミノフェンに対してアナフィラキシーを起こした 7 歳男児における代替薬の検索
2017 年 3 月 12 日 大阪

荒木亮佑、水本洋、宮本尚幸、鈴木久美子、遠藤耕介、佐藤正人、秦大資
第 30 回近畿小児科学会
輸血後に壊死性腸炎を発症した 25 週早産児の 1 例
2017 年 3 月 12 日 大阪

花見洋太郎、熊倉啓、米田徳子、緒方英人、荒木亮佑、宮本尚幸、高折徹、羽田敦子、秦大資
第 30 回近畿小児科学会
急速進行の重度の弛緩性麻痺で複数のウイルス感染による脊髄炎と末梢神経障害合併が示唆された 1 歳男児例
2017 年 3 月 12 日 大阪

飯塚千尋、米田徳子、緒方瑛人、小田紘嗣、吉岡孝和、鈴木久美子、遠藤耕介、佐藤正人、秦大資
第 30 回近畿小児科学会
腹痛が先行し、腹腔鏡下試験開腹術が診断に有用であった IgA 血管炎の 1 例
2017 年 3 月 12 日 大阪市

石嶺里枝
第 30 回 近畿小児科学会
腹痛、嘔吐を主訴に発見された膵尾部 solid pseudopapillary neoplasm の 15 歳女子
2017 年 3 月 12 日 大阪国際会議場（大阪市）

米田徳子
第 30 回 近畿小児科学会
冠動脈の拡張病変を合併し PET/CT にて所見を認めた検査で Castleman 病が疑われた一例
2017 年 3 月 12 日 大阪市

(5) 院外活動、地域医療との関わり

大阪府国保支払い基金審査医

秦 大資

第12回医学生・若手医師の為の小児科診療最前線

2016年6月開催 座長 秦大資

小児科主催学術講演会 年1回(2016年10月開催) 座長 秦大資

小児気管支喘息研究会 年1回(2017年3月開催) 世話人 吉岡孝和 他

●NCPR A コース. 2016年4月23日、5月28日北野病院.

NCPR B コース. 2016年5月14日浜田病院、9月10日恵生会病院.

9月14日たかばたけウィメンズクリニック、11月22日北野病院.

NCPR インストラクターフォローアップコース. 2016年7月3日北野病院. 2017年1月29日北野病院

NCPR インストラクター養成コース(講師として参加).

2016年10月30日大阪大学附属病院. 2017年2月12日大阪大学附属病院

●第3回医学生・研修医向けNICU入門セミナー(チューターとして参加). 2016年5月21日～5月22日名古屋.

●新しい新生児蘇生ガイドラインと、人工呼吸を成功させるためにできること. 第12回医学生・若手医師のための小児科診療最前線. 2016年6月4日北野病院.

●NICUにおける免疫グロブリンの使用について. 第10回京都大学NICU公開セミナー. 2016年6月11日京都.

●ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法～変わったこととこれからも変わらないこと～. 第25回京都母性衛生学会学術講演会. 2016年6月18日京都.

●ラリングアルマスクエアウェイ講習会

北野病院開催: 2016年8月13日、9月17日、10月22日、11月19日

院外開催: 2016年10月15日浜田病院、済世会中津病院、11月24日バルナバ病院、12月4日清恵会病院、12月10日西神戸医療センタ、2017年1月25日サンタクルス夙川、2月22日助産師会館、3月8日米田産婦人科

●とことん新生児セミナー2016(チューターとして参加). 2016年9月3日～9月4日大阪.

●京都大学S16臨床講義「小児の救急とプライマリケア」2016年10月26日

●これで安心! 3歳までの育児ガイド. LEAVES講演会. 2016年11月12日大阪.

●平成27年度第4回周産期医療研修会「いざという時に新生児を救うラリングアルマスク」2017年2月25日大阪府医師会館

●羽田敦子 一般演題 「当院におけるVREのアウトブレイクと抗菌薬適正使用について」座長、第14回北大阪感染症研究会 2017年1月27日 北野病院

*** 外来患者数（小児科）年報 ***

対象年月： 2016年4月～2017年3月

小児科	診療 実日数	合計				1日平均患者数	地域支援 紹介率	初診(再掲)			再診(再掲)			時間外 緊急入院
		合計	時間内	時間外	救急車での搬送患者(再掲)			合計	時間内	時間外	合計	時間内	時間外	
4月	22.0	2,850	2,337	513	153	130	79.8%	593	301	292	2,126	2,036	90	131
5月	20.5	2,792	2,189	603	145	136	73.8%	606	250	356	2,059	1,939	120	127
6月	23.5	2,798	2,338	460	145	119	78.7%	543	289	254	2,145	2,049	96	110
7月	22.0	2,987	2,182	805	226	136	83.4%	660	186	474	2,181	1,996	185	146
8月	23.5	3,031	2,376	655	189	129	79.9%	543	145	398	2,346	2,231	115	142
9月	21.5	2,578	2,042	536	124	120	88.2%	455	159	296	2,013	1,883	130	110
10月	22.0	2,917	2,215	702	153	133	94.8%	565	160	405	2,214	2,055	159	138
11月	21.5	2,793	2,066	727	173	130	96.6%	562	140	422	2,071	1,926	145	160
12月	20.5	2,956	2,097	859	188	144	95.7%	637	133	504	2,167	1,964	203	152
1月	20.5	2,625	1,886	739	183	128	112.1%	580	111	469	1,923	1,775	148	122
2月	21.5	2,464	1,846	618	160	115	79.3%	528	130	398	1,834	1,716	118	102
3月	23.5	2,952	2,357	595	175	126	74.5%	486	135	351	2,350	2,222	128	116
合計	262.5	33,743	25,931	7,812	2,014			6,758	2,139	4,619	25,429	23,792	1,637	1,556
平均	21.9	2,812	2,161	651	168	129	86.4%	563	178	385	2,119	1,983	136	130

※合計欄の時間外とは、「時間外」「深夜」「休日」「時間外緊急入院」の合計値とする。

【救急患者内訳】

	時間内	時間外	休日	深夜	合計		時間内	時間外	休日	深夜	合計
4月	139	54	163	173	529	10月	129	50	126	153	458
5月	109	39	309	169	626	11月	110	43	153	175	481
6月	136	51	142	171	500	12月	108	51	223	172	554
7月	145	64	165	192	566	1月	80	48	245	151	524
8月	122	84	134	177	517	2月	116	90	267	165	638
9月	112	59	220	150	541	3月	115	78	202	178	573
合計						合計	1,421	711	2,349	2,026	6,507
平均						平均	118.4	59.3	195.8	168.8	542.3

※初診(再掲)、再診(再掲)の「時間外」を「時間外」「休日」「深夜」、及び時間内の救急患者を「時間内」にて再掲

*** 入院患者数（小児科）年報 ***

対象年月： 2016年4月～2017年3月

小児科	新入院患者数			退院患者数			入院実患者数	入院延日数	在院延日数	平均在院日数	一日平均患者数
	新入院	時間外緊急入院(再掲)	転入	退院	死亡	転出					
4月	247	131	2	236	0	6	249	1,828	1,592	6.6	53.07
5月	227	127	2	249	0	1	229	1,769	1,520	6.4	49.03
6月	238	110	1	227	0	4	239	1,599	1,372	5.9	45.73
7月	305	146	5	289	0	4	310	2,042	1,753	5.9	56.55
8月	282	142	1	300	0	7	283	1,996	1,696	5.8	54.71
9月	230	110	3	223	0	4	233	1,687	1,464	6.5	48.80
10月	291	138	1	296	1	1	292	1,977	1,680	5.7	54.19
11月	280	160	1	275	0	3	281	1,863	1,588	5.7	52.93
12月	278	152	3	275	0	4	281	1,904	1,629	5.9	52.55
1月	210	122	0	201	0	4	210	1,679	1,478	7.2	47.68
2月	209	102	1	215	0	3	210	1,556	1,341	6.3	47.89
3月	241	116	2	241	1	3	243	1,874	1,632	6.8	52.65
合計	3,038	1,556	22	3,027	2	44	3,060	21,774	18,745		
平均	253	130	2	252	0	4	255	1815	1562	6.2	51.32

※入院実患者数＝新入院患者数＋転入患者数
 ※入院実患者数には、繰越患者数を含めない。

2016年度疾患別入院患者数（総数3060名）			
感染症	482	新生児（黄道を含む）	234
急性咽頭炎、扁桃炎	241	<出生体重別>	
急性中耳炎	14	超低出生体重児（～999g）	4
急性副鼻腔炎	1	極低出生体重児（1,000～1,499g）	13
急性喉頭炎、クループ	13	低出生体重児（1,500～2,499g）	70
A群β溶連菌感染症	11	出生体重2,500g以上	147
細菌性髄膜炎	12	（詳細はNICU入院患者に別掲）	
扁桃周囲膿瘍、咽後膿瘍	3	アレルギー・免疫	413
ぶどう球菌性皮膚熱傷様症候群、蜂窩織炎	21	気管支喘息・喘息発作	161
百日咳	3	川崎病	62
トキソプラズマ症	1	全身型若年性特発性関節炎	1
敗血症	2	全身性エリテマトーデス	2
細菌性髄膜炎	1	混合性結合組織病	1
感染性関節炎	6	若年性皮膚筋炎	4
VPシヤント感染症	1	強皮症	2
播種性結核	3	リウマチ熱	1
インフルエンザ	37	大動脈炎症候群	14
アデノウイルス感染症	16	PFAPA症候群	1
無菌性髄膜炎	19	多形滲出性紅斑	6
ムンプス	14	IgA血管炎	15
ヒトメタニューモウイルス感染症	3	アナフィラキシー、蕁麻疹	42
水痘、帯状疱疹	8	食物アレルギー	99
ヘルペス歯肉口内炎	9	アトピー性皮膚炎	2
カボシー水痘様発疹症	2	消化器	406
サイトメガロウイルス感染症	3	ウイルス性胃腸炎	175
EBウイルス感染症	6	細菌性腸炎	50
手足口病、ヘルパンギーナ、突発性発疹等	32	逆流性食道炎	3
神経	280	嘔吐症	12
熱性けいれん	111	新生児黄疸	93
無熱性けいれん	49	胃潰瘍	2
てんかん	58	十二指腸潰瘍	1
意識障害	9	肥厚性心門狭窄症	2
脳梗塞	1	急性肝炎	5
急性脳症、脳炎	3	腸間膜リンパ節炎	2
もやもや病	1	急性膵炎	2
脳出血後遺症	1	イレウス	2
ギラン・バレー症候群	5	急性腹症	2
末梢神経障害	5	膵膵炎	2
弛緩性麻痺	2	小腸捻転症	1
歩行障害	4	メッケル憩室	1
全身型重症筋無力症	1	潰瘍性大腸炎	4
運動発達遅滞	5	腸重積	21
頭痛	10	便秘症	3
神経性嘔吐症	3	肛門周囲膿瘍、多発性痔瘻	1
顔面神経麻痺	1	急性虫垂炎	14
起立性調節障害	2	過敏性腸症候群	3
不安神経症・心身症	2	ヒルシユスブルンク病	1
過換気症候群	1	機能性ディスペプシア	1
水頭症	2	血便	3
全前脳症	1	心臓・循環器（新生児領域と重複あり）	59
大脳皮質形成異常	1	心室中隔欠損症	18
裂脳症	1	心房中隔欠損症	2
腰仙部皮膚洞	1	房室中隔欠損症	2
内分泌・代謝	37	先天性三尖弁閉鎖不全症	1
成長ホルモン分泌不性低身長症	5	大動脈縮窄症	3
SGA性低身長症	1	大血管転位症	1
中枢性思春期早発症	2	兩大血管右室起始症	1
尿崩症	1	冠動脈肺動脈起始症	2
電解質異常	1	心臓型後肺静脈還流異常症	1
先天性甲状腺機能低下症	1	冠縮性狭心症	1
バセドウ病	2	冠動脈疾患	1
II型糖尿病	1	肺高血圧症	4
低血糖症	5	心筋症	2
高メチオニン血症	1	来院時心臓停止	1
非ケトン性高グリシニン血症	3	上室性頻拍	2
ゴーシェ病2型	8	心房頻拍	3
ターナー症候群	1	心房期外収縮	1
ケトン血性嘔吐症	5	心室頻拍	2
血液・腫瘍	87	心室期外収縮	1
急性白血病	4	QT延長症候群	3
神経芽腫	2	川崎病性冠動脈瘤	4
纖維形成性小円形細胞腫瘍	1	その他の先天性心疾患	2
粗神経腫瘍	8	チアノーゼ発作	1
小脳髄芽腫	2	腎臓・泌尿器	74
頭蓋内胚細胞腫瘍	5	急性糸球体腎炎	1
下垂体腫瘍	1	溶連菌感染後急性糸球体腎炎	4
前頭頭間隙腫瘍	1	慢性腎炎症候群	1
肝腫瘍	1	IgA腎症	1
腎腫瘍	1	ネフローゼ症候群	5
リンパ管腫、血管腫	6	急性腎盂腎炎	44
心臓粘液腫	2	急性巣状細菌性腎炎	4
小球性貧血	10	水腎症	1
鉄欠乏性貧血	12	重複腎盂尿管	2
溶血性貧血	3	膀胱尿管逆流	2
再生不良性貧血	1	腎腫瘍	1
血友病A	1	多発性嚢胞腎	2
多血症	1	血尿	1
特発性血小板減少性紫斑病	9	膀胱炎	2
好中球減少症	9	神経因性膀胱	1
血球貪食症候群	3	精巣捻転症	1
壊死性リンパ節炎	3	外陰炎	1
GVHD 骨髄移植後	1	救急・その他	66
呼吸器	922	栄養失調	1
気管支炎、肺炎	710	哺乳障害	2
RS細気管支炎	176	脱水症	5
気胸	1	急性薬物中毒	6
縦隔気腫	2	異物・タバコ誤飲	7
喉頭軟化症	2	脳脊髄液漏	1
喉頭嚢胞	1	ぶどう膜炎	1
気管軟化症	3	網膜静脈血栓症	1
再閉下狭窄症	1	梅毒	1
呼吸障害	13	頸椎症	1
喘鳴	2	下腰痛	4
慢性咳嗽	1	多発性関節拘縮症	1
急性胸膜炎	1	多発性奇形症候群	3
無呼吸発作	1	頭部打撲	1
睡眠時無呼吸症候群	2	熱中症	3
		溺水	2
		BCG副反応	1
		予防接種後発熱	13
		不明熱	12

NICU・GCU入院患者（234名）（黄疸を除く）			
＜出生体重別＞			
超低出生体重児（～999g）			4
極低出生体重児（1,000～1,499g）			13
低出生体重児（1,500～2,499g）			70
出生体重2,500g以上			147
人工呼吸管理 24例 nasal CPAP 40例 新生児搬送 107例			
＜呼吸器疾患＞	100	＜消化器疾患＞	8
新生児呼吸窮迫症候群（RDS）	8	腸回転異常	2
新生児一過性多呼吸	72	壊死性腸炎	1
胎便吸引症候群	14	短腸症候群	2
声帯外転障害	1	鎖肛	1
エアリーク症候群	1	初期嘔吐	2
重症慢性肺障害	4	＜内分泌・代謝＞	27
＜循環器疾患＞	22	一過性低血糖	19
新生児遷延性肺高血圧	2	一過性高インスリン血症	3
晚期循環不全	3	先天性甲状腺機能低下症	1
先天性心疾患37例は小児科循環器に記載	NICU入院 17	偽性低アルドステロン症	1
＜中枢神経系＞	20	副甲状腺機能亢進症	2
重症新生児仮死（脳低体温療法）	6	低ホスファターゼ症	1
無呼吸発作、新生児けいれん	12	＜染色体異常・先天奇形症候群＞	11
脳室内出血	1	21トリソミー	5
新生児脳梗塞	1	22q11.2欠失症候群	1
＜感染症・免疫＞	28	結節性硬化症	1
新生児敗血症（疑い症例を含む）	17	先天性表皮水疱症	1
敗血症性ショック	1	Prader-Willi症候群	2
新生児TSS様発心症	2	鎖骨頭蓋異骨症	1
先天性トキソプラズマ感染症	2	＜その他＞	20
ミルクアレルギー	5	重症新生児黄疸	13
マクロファージ活性化症候群	1	多嚢胞性異形成腎	1
＜血液・腫瘍性疾患＞	7	特発性胸水	1
急性骨髄性白血病	1	哺乳障害	3
一過性骨髄異常増殖症	1	新生児メレナ	1
本態性血小板増多症	1	帽状腱膜下出血	1
多血症	2		
巨大血管腫	1		
カサバハメリット症候群	1		
計3344名 小児入院患者数：小児科入院患者3060名（NICU入院234名を含む）＋小児外科入院284名			

2016年小児科 主たる疾患別平均在院日数

急性喉頭炎、クループ	5.4	日
気管支炎、肺炎	6.3	日
RS 細気管支炎	6.1	日
インフルエンザ	5.5	日
喘息、喘息性気管支炎	5.9	日
急性胃腸炎	4.4	日
細菌性胃腸炎	5.6	日
腸重積	5.4	日
腎盂腎炎	9.9	日
無菌性髄膜炎	6.5	日
敗血症	14.0	日
アレルギー性紫斑病	16.1	日
川崎病	11.2	日
脳炎、脳症	127.5	日
超低出生体重児	119.5	日
極低出生体重児	81.0	日